

【出会った言葉から】

校長

TOKYO FM をキーステーションとして全国で放送されている「ありがとう、先生!」というラジオ番組があります。この番組では、リスナーから寄せられた「先生からもらった忘れられない言葉」や、先生との心温まるエピソードが紹介されています。

校長室のロッカーの上には、この番組で紹介された「先生からもらった忘れられない言葉」を集めた日めくりが置いてあります。私は毎日その日めくりをめぐりながら、そこに書かれている言葉の意味について考えています。

今回は、その中から進路実現に向けて大切だと思う言葉をいくつか紹介したいと思います。

○「ありがとうと ごめんなさいは 自分がいちばん先に言いなさい」

「ありがとう」の一言は、相手だけでなく、自分自身の心も和ませ、周囲に穏やかな和を広げていきます。また、「ごめんなさい」を素直に言える誠実さは、安心や信頼を生み、人を大切にしようという関係や、困難なときにも支え合える関係を育ててくれます。こうした姿勢は、本校の校訓である「感謝」と「誠実」にも通じるものだと思います。



私は、特に「自分がいちばん先に」という部分が大切だと感じています。人に言われたからではなく、また促されたからでもなく、自分から進んで「ありがとう」「ごめんなさい」と言えることは、とても素敵なことです。そして、この姿勢はすべてのあいさつにも通じます。ぜひ、「自分がいちばん先に」を心がけ、自分から気持ちのよい言葉を伝えられる人になってほしいと思います。

○「遅刻は相手の時間をうばうこと」

私はどちらかというと時間にルーズなところがあるので、この言葉を目にするたびに自分自身を振り返ります。遅刻をすると、待っている人たちの貴重な時間を奪ってしまうことになります。また、自分自身も信頼という大切なものを失うことになります。信頼を得るには時間がかかりますが、失うのは一瞬です。「たかが遅刻ぐらい」と思うかもしれません。しかし、その「たかが遅刻」で信頼を損なうことがあります。さらに、時間を守ることは相手への敬意を示すことにもつながります。進学や就職など、これからの進路選択の場面では、時間を守る姿勢がより一層求められます。ぜひ日頃から時間を大切にし、約束の時刻を守ることを意識してほしいと思います。



○「得意な人に頼みなさい。自分の得意分野でお返しすればいい」

私たちは、「何でも一人でやらなければならない」と思い込んでしまうことがあります。しかし、社会は一人ですべてのことを成し遂げるのではなく、それぞれが得意なことを生かしながら支え合うことで成り立っています。

困ったときに助けを求めたり、人に頼ったりすることは決して恥ずかしいことではありません。むしろ、自分から「助け」を求めることが大切であり、助けてくれる人、他者とのつながりを築くことは、進路実現の一步だと思います。

「自分の得意分野でお返しすればいい」という言葉は、助けてもらったら自分のできることで誰かの役に立てばよいということを示しています。では、みなさんは何でお返しができるでしょうか。ぜひ考えてみてください。お返しができるように、自分の得意なこと、「これだけは」と思えること、自分の強みを見つけてください。

例えば、

- ・明るくあいさつができる。
- ・「ありがとう」「ごめんなさい」が言える。
- ・返事をきちんとできる。
- ・約束や時間を守れる。
- ・人の話を最後までしっかり聞ける。
- ・困っている人に声をかけられる。
- ・最後まであきらめずに取り組める。
- ・掃除や片付けを進んでできる。
- ・運動を続けていて、体力に自信がある。
- ・絵を描くことが好きである。
- ・歌が上手である。 などなど



特別な才能である必要はありません。「あいさつができる」「約束や時間を守れる」「人の話を聞ける」といった、当たり前にも思えることも、周囲の人を支える大切な力です。自分にはどんな強みがあるのか、ぜひ考えてみてください。そして、自分の得意なことや自信をもてることを、一つでも二つでも増やしていったほしいと思います。

○「実力の差は小さい。努力の差は大きい。」

私たちは、人と自分を比べて「能力の差」を感じることがあります。しかし、実際には最初から大きな差があるわけではありません。いま、活躍している人たちも、地道な努力を積み重ねてきた結果として、いまの姿があるので。

そこで、偉人や著名人の言葉から、考えてみましょう。

・電球や蓄音機などを発明した「発明王」

「天才とは1%のひらめきと99%の努力である。」

・日米通算 4000 本以上の安打を記録したプロ野球選手

「努力せずに何かできるようになる人のことを天才というのなら、僕はそうじゃない。」

・メジャーリーグで活躍するプロ野球選手

「成功するとか失敗するとか僕には関係ない。それをやってみることの方が大事。」

・日米で活躍し、国民栄誉賞を受賞したプロ野球選手

「努力できることが才能である。」

・日本を代表するお笑い芸人・司会者

「努力は必ず報われる。報われない努力があるとしたら、それはまだ努力と呼べない。」

どの言葉にも、「努力の大切さ」が込められています。

努力は、すぐに成果として表れるとは限りません。しかし、あきらめずに続けた時間は、確実に自分の力となります。勉強でも運動でも、自分の役割や責任をしっかりと果たすことでも、そして自分の好きなことでも、毎日の小さな積み重ねが、やがて大きな成長につながります。

今日の小さな努力の積み重ねが、将来の大きな力になります。目の前のことに一歩ずつ取り組みながら、自分の可能性を広げていってほしいと思います。

みなさんも、これまで出会った先生や家族、友人からもらった言葉を思い出してみてください。その言葉の中に、自分の将来を考えるヒントや、自分らしく生きるための道しるべがあるかもしれません。

【初めての職場体験を通して学んだこと】

～中学部3年生チャレンジ体験について～

中学部教諭

今回は6月に実施した中学部3年生のチャレンジ体験の様子について報告します。

中学部3年生3名は、6月24日（水）から26日（金）までの3日間、チャレンジ体験として、それぞれ「愛ポート'05」、「Garden」、「のぞみの家」の3か所の事業所で体験を行いました。3名とも初めての体験であることに加えて、クラスメイトや担任がいる学校とは大きく異なる環境で緊張を強いられながらも果敢に挑戦していた姿がとても印象的でした。

「愛ポート'05」での体験の様子

「愛ポート'05」は、岡崎市竜美南に拠点を構える就労継続支援 B 型事業所です。視覚障害支援に特化した事業所でもあります。作業内容としては、自動車部品の製造の他に、トイレの温水洗浄便座に使用される部品の製造などに取り組みました。体験に参加した生徒の感想としては、「初めは緊張したけど、スタッフさんや、利用者さんがとても親切で優しかった。事業所の雰囲気も明るくて楽しく体験することができた。」と語っていました。



「Garden」での体験の様子

「Garden」は、安城市横山町管池に拠点を構える就労継続支援 A 型事業所です。作業内容としては、自動車部品のバリ取りや、両面テープ貼り

などの作業を軸として取り組みました。

体験に参加した生徒の感想としては、「最初は緊張しましたが、働くことを知る良い機会となりました。作業を楽しいと思えることもありました。」と語っていました。



「のぞみの家」での体験の様子

「のぞみの家」は、岡崎市欠町に拠点を構える就労継続支援 B 型事業所で岡崎市による準公営の福祉事業団に属しています。作業内容としては、

自動車部品の組み入れや、型はめなどの作業に取り組みました。体験に参加した生徒の感想としては、「周りは大人ばかりだし、一人で作業に取り組むのは、すごく心細かったけどがんばった。」と語っていました。



3名それぞれが異なる事業所で体験し、学んだことは、三者三様ですが、各々に共通していることは、学校とは異なる未知の場所で経験したことのない作業に取り組み、そ

こで試行錯誤を繰り返すことで得られた仕事に取り組むうえでの困難さや、楽しさ、責任感、達成感など多岐に渡るものであったと思います。また、他者とのコミュニケーションについても学ぶことの多い貴重な時間であったと思います。今回の体験によって明確となったそれぞれの課題については、今後中学部を卒業し、高等部などその後の進路先でも改善を目指すべきものですが、今回の経験が生徒たちを更に成長させてくれたのではないかと実感しています。

【 宝 島 】

高等部理療科教諭

みなさん、こんにちは。夏休みも終わり、いよいよ2学期が始まりました。卒業や修了を控えたみなさんにとっては、進路決定や就職・進学に向けた大切な時期を迎え、「勝負の時が近づいてきた」と感じている人も多いのではないのでしょうか。その一方で、焦りや緊張を抱えている人もいるかもしれません。私自身、専攻科理療科3年生の夏休みに教員を目指すことを決意しました。しかし、その決断は決して早いものではありませんでした。理療科教員になるためには、筑波大学理療科教員養成施設への進学が必要です。当時、その進路を選んでいた同級生たちは専攻科入学当初から準備を進めていました。そのような中で、ようやく進路を決めた私が担任の先生にその意思を伝え、「教員を目指すのは自由だけど……」と少し戸惑われた様子でした。今振り返ると、それまでの成績や準備状況を考えれば、無謀な挑戦に見えたことでしょう。実際、先生は言葉には出さなくても心配されていたのではないかと思います。前回の「宝島」では、スポーツトレーナーを進路の選択肢として考えたエピソードを書きました。現実的な進路よりも、少し変わった方向に興味を向けてしまう私に、先生方も苦勞されたかもしれません。今回は、そんな私が「可能性を探す」というよりは、かなり現実離れした発想から進路を考えていた頃の話を書いてみたいと思います。



22. パンダにマッサージを？

みなさんは「ワニの涙現象」という言葉を聞いたことがありますか。これは重症の顔面神経麻痺が回復した後、食事でそしゃくすると涙が流れてしまう症状のことです。専攻科理療科2年生の授業で学んだ内容でしたが、私が気になったのは症状そのものではなく、「本当にワニは涙を流すのだろうか」ということでした。

当時は今のようにインターネットで簡単に調べられる時代ではありません。図書室で資料を探してみましたが答えは見つかりませんでした。そこで思いついたのが、動物園への問い合わせでした。私は以前から動物が好きで、飼育係になりたいと思っていた時期もありました。専攻科進学後は東京で生活するようになり、上野動物園や多摩動物公園、葛西臨海水族園へよく足を運んでいました。動物園に通ううちに、単に楽しい場所というだけでなく、さまざまな疑問が湧くようになりました。「動物たちは狭い園舎でストレスを感じないのだろうか」それが



が最初の疑問でした。常に人に見られながら生活する動物たちの環境が、自分自身の置かれていた環境とどこか重なって感じられたのです。そして私は、「動物たちのストレスを和らげることはできないだろうか」と考えるようになりました。

競走馬への笹針治療の話を聞いたことがあった私は、その延長で「動物にマッサージをしたらどうだろう」と考えました。今振り返るとかなり短絡的な発想ですが、当時の私は真剣でした。しかし、理療科の先生に相談するには少々ためらいがありました。そこで相談したのが

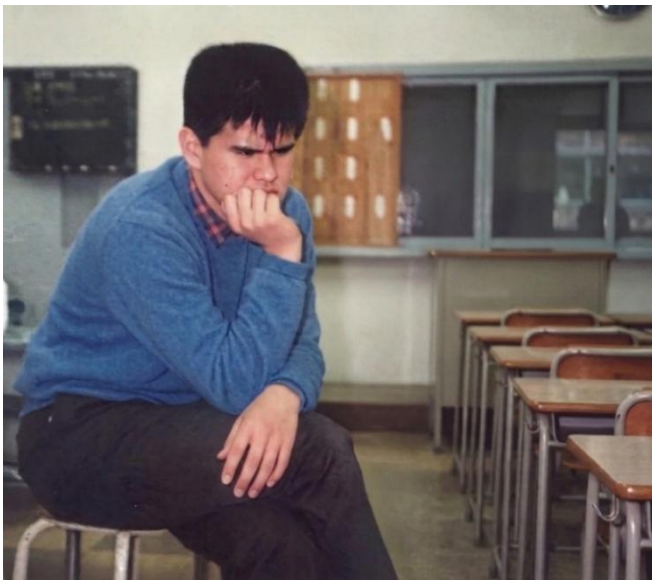
理学療法科の星 虎男先生でした。星先生はとてもユーモアがあり、以前、私が理学療法科の授業を見学したいとお願いした際にも親身に対応してくださいました。そのため、この話も受け止めてくださるのではないかと思ったのです。話を聞いた先生は、「君は面白いことを考えるなあ。では、ワニの涙の件も含めて、マッサージについて聞いてみよう」と言ってくださいました。私は勢いついて、「できればパンダにマッサージをしてみたいです」とお願いしました。パンダを選んだのは、単純に好きだったことに加え、来日したパンダが体調を崩した際に漢方薬で治療したという飼育日記を読んだことがあったからです。約1か月後、星先生から回答をいただきました。その中でまず説明されたのは、「パンダはクマの仲間であり、見た目はかわいらしくても猛獣であること」、「飼育員でもない人がマッサージを行うのは非常に危険であること」でした。さらに先生は、なぜ私がそこまでパンダにこだわるのかを丁寧に確認してくださいました。そして最後に、こんな言葉をかけられました。「君は幼い頃の記憶だけで判断している。だから、パンダが実際にどれくらいの大きさを、どんな動物なのかを現実を知る必要がある」。さらに、「生きているパンダに触るのは危険だが、剥製なら触らせてもらえるように話をしておいた」という、信じられないような提案までしてくださいました。私の記憶の中のパンダは、当時飼っていた秋田犬より少し大きい程度の動物でした。遠くから見た印象しかなかったため、そのくらいの大きさだと思い込んでいたのです。



多摩動物公園には、1980年に亡くなったカンカンと、1979年に亡くなったランランの剥製が保存されていました。特別な配慮により、その剥製に実際に触れさせていただく機会

を得ました。触れてみて驚いたのは、その圧倒的な大きさです。秋田犬とは比較になりませんでした。毛並みも想像していたような「モフモフ」ではなく、まさに「熊そのもの」という印象でした。この体験をきっかけに、私は上野動物園の資料室も紹介していただき、それまで以上に動物について学ぶようになりました。

現在では、犬や猫などペット向けのマッサージが行われていることをインターネットで知ることができます。そう考えると、「自分にも先見の明があったのでは」と思いたくなりますが、実際はそうではありません。星先生がおっしゃったように、私は単に「知らなかった」のです。現実を十分に知らないまま自分のイメージだけで判断していたため、実際の状況を正しく理解できていなかったのです。実は、スポーツマッサージの道を進路として選ばなかった背景にも、同じような経験があります。この出来事以降、私は「自分の理解は本当に正しい



のだろうか」、「言葉で聞いて想像していることと現実は一致しているのだろうか」と考えるようになりました。「不安」という言葉はマイナスの印象を与えるかもしれませんが、しかし今振り返ると、その不安こそが正しい理解へとつながる大切な入り口だったように思います。

今回は、教員を目指す前に考えていた別の進路について、その時の行動やエピソードを書いてみようと思います。

【なぜ勉強するのか】

進路指導主事

今年度、わが家の長女が高校3年生になりました。受験を控えて勉強を最も頑張る時期 …のハズですが、少し前に突然「何のために勉強するのか分からない」、「学校なんて行く意味あるの?」と言い出しました。高校に入学して素直になった娘はどこへ行ってしまったのか。まさかの第三次反抗期の到来です。

娘の言い分は、「大人になったら使わない数学の問題を解いたり、理科の実験をしたり、歴史の年表を覚えたりして、学校の勉強がいったい何の役に立つのか」というものでした。授業が終わると仮装してショッピングモールへと繰り出し、夜遅くまで青春を謳歌する日々です。



もちろん、本人が社会の仕組みや将来のことをしっかり理解した上で行動しているのであれば何の問題もありません。今を楽しむことの価値は十分理解しているようです。しかし、この段階で「勉強しなくても大丈夫!」と言い切るには、人生経験がまだ十分とはいえません。

そこで、私自身が教員研修や大学の教育学部で学んだことを思い出しながら、「勉強する意味」について、自分の経験も交えて話をしました。本校の児童生徒の皆さんからも同じような悩みを聞くことがありますので、少しでも参考にしていただければと思います。

まず一つ目は、「考える力を身につけるため」です。

確かに、大人になってから数学の難解な公式を使う機会はほとんどなく、歴史の年号をすべて覚えている必要もないかもしれません。しかし、勉強の

本当の価値は、計算の方法や知識そのものを覚えることではありません。数学や理科では、筋道を立てて考える力が養われ、社会では、物事の背景や因果関係を考える習慣が身につきます。国語では文章を読み取り、自分の考えを整理して伝える力が育ちます。社会に出ると、答えのない問題や、これまで経験したことがない初めての出来事にたくさん出会いますが、そのような場面で必要になるのは、勉強を通して培われた「考える力」なのです。

二つ目は、「将来の選択肢を増やすため」です。

学齢期の段階で、将来の夢や進路がはっきり決まっている人ばかりではありません。むしろ、多く的人是はこれからさまざまな経験を重ねながら、自分が何に興味をもち、どんな仕事をしていきたいのかを見つけていきます。しかし、本当にやりたいことが見つかったときに、学力が不足していることで進路の選択肢を狭めてしまうことがあります。就職試験や進学試験、資格試験などの多くが、学力を最初の評価基準にしているため、学校の授業や家庭学習で学力を身に付けておくことは、進路の選択肢を確実に広げます。

三つ目は、「脳を成長させるため」です。

歴史の年号や英単語などのシンプルな記憶でも、新しい知識を覚える経験を重ねることで脳の記憶細胞は増え、強く変化していきます。そして、次の新しい知識をより早く覚えられるようになります。さらに、脳の中の知識量が増えるほど、覚えたことが忘れにくくなるという研究結果もあります。社会に出てからも新しい仕事の手順や方法、知識を覚えることが必ず求められます。効率よく記憶する力が身に付いている人は、新しい環境にも適応しやすくなります。



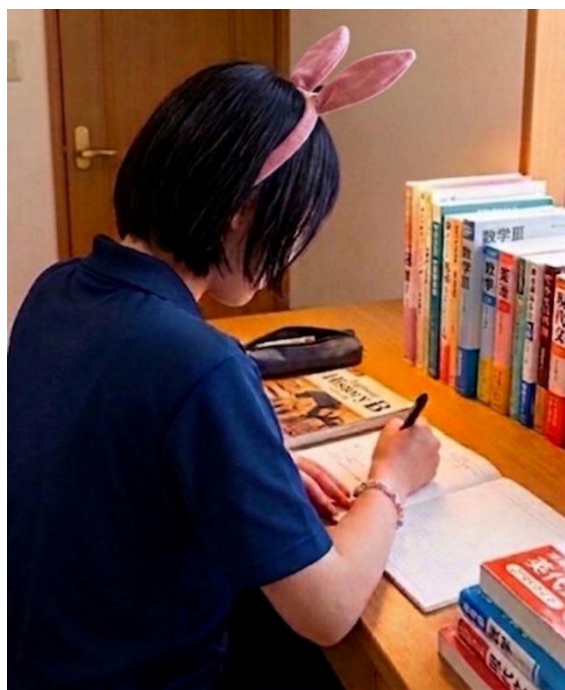
最後の四つ目は、「困難に向き合う力を育てるため」です。

難しい課題問題に取り組むとき、すぐに諦めず別の方法を試したり、何度も調べたりする経験は、困難を乗り越える力を育てます。また、間違えた問題を解き直す習慣は、何が原因でどう行動すれば改善できるのか、考え出す力を高めます。たとえ机上の学習であっても、壁を乗り越えた数だけ困難を切り開いていく力が育っていきます。



このような話をした後、娘も自分なりに勉強の意義について調べてみたようです。すぐに考え方が変わったわけではありませんが、自宅で少しずつ机に向かう時間が戻り、授業の予習などにも前向きに取り組む姿勢が見られるようになりました。親が話した内容がそのまま心に響いたわけではない

と思いますが、「なぜ勉強するのか」という問いに対して、自分自身で考えるきっかけになったのかもしれません。



子どもたちは一人一人性格が違います。「勉強しなさい」と言われて行動できる子もいれば、自分で納得できなければ動けない子もいます。私の娘は間違いなく後者です。だからこそ勉強を押し付けるのではなく、その先にある意味や価値を伝えることを大切にしています。

勉強は決してテストで良い点を取るためだけのものではありません。自分の可能性を広げ、将来の選択肢を増やし、自分の力で困難を切り開いていくための大切な土台です。本校の幼児児童生徒の皆さんにも、その意味を自分なりに考えながら学び続けていってほしいと思います。

お知らせ と アンケート

これまでの進路情報「DREAM」のバックナンバーにつきましては、学校ホームページに掲載しています。下記 QR コードからリンクしていますので、ぜひご覧ください。



また、進路情報「DREAM」についてのご感想やご意見、今後記事にしてほしい内容などがあれば、ぜひお知らせください。今後の紙面作りの参考とさせていただきます。下記 QR コードからアンケートフォームにご記入ください。

